

県外派遣報告書

審判員名	大井 陽平	所属	中体連盟
大会名	U25 YOUNG OFFICIALS CAMP		
期間	平成29年8月11日(金・祝)～8月13日(日)		
会場	上尾スポーツ総合センター 上尾運動公園総合体育館		

スケジュール

期 日	内 容	場 所
8月11日	開講式・講義①・フロアトレーニング・講義②	上尾南高校体育館
8月12日	3PO実技・講義③・閉講式	上尾運動公園総合体育館
8月13日	3PO実技	上尾運動公園総合体育館

会議 講義 内容

**【開講式・挨拶】JBA審判委員長 阿部 哲也 氏**  
日本のバスケットは大きく変化している。そしてレフリーも同様に変化している。世界では、平均29歳で国際審判員になって活躍している。日本もより早い段階で国際審判となり、世界の舞台に立つ審判員を育成する。それはおのずと日本の競技レベル向上にも直結する。この場から一人でも多くの国際審判員が輩出されることを願っている。

**【審判部長挨拶・講義②ガイドライン】JBA審判部長 宇田川 貴生 氏**  
ガイドラインについて映像を用いながら講義をして頂きました。今回のガイドライン改訂版は何のためにつくられたのかということをもう一度考える。判定の根拠であり、審判員としてベースとなるものなので密な理解が必要である。新たな事項としては、プロテクト・シューターや明らかなたラベリングなどが組み込まれており、それらをコート上で判定に結び付けていく。その判定をするためにはメカニクスが重要であり、このYOCで学んでいく欲しい。

**【副委員長挨拶】JBA審判委員会副委員長 平 育雄 氏**  
目標をより具体的にもち、時系列に整理していくこと。いつ県内でA級トライをできる立ち位置にいか、何歳でA級になるのか。そしていつS級・国際になるのかというビジョンを持ち、それらに必要なことを積み重ねていく。その目標はより早く高いものの方が自分を高めることができる。

**【講義①3POメカニクス・講義③映像研修】IBAレフェリーインストラクター 上田篤拓 氏**  
FIBA新レギュレーションでは、現段階で日本に与えられた枠は13人で、その中でさらに3つのレベルに段階別される。この13人は2年ごとを周期で変わっていく。英語力は国際審判になるうえで求められている力である。今足りないことは“毎日すぐにやる”ことが重要であり、周りの仲間と情報をshareしてレベル・アップしていく。映像はそのための最大のツールである。映像解析する際にはその現象だけではなくその前までの過程から見る。

**【講義③プレゼンテーション】東京都国際審判員 加藤 誉樹 氏**  
プレゼンテーションは、判定力と同じくらい必要とされることである。また、同様にメカニクスも重要である。メカニクス・プレゼンテーションがあるからこそ判定に厚みが増す。プレゼンテーションは、まずマニュアルに沿って忠実にやる。そして声を使ってレポートやコミュニケーションをしていく。

実技

期 日	8月12日	男子・女子	2日目
担当試合	対戦カード	VS	
	都立駒場・足立	大宮東・鴻巣・朝霞	4ハーフゲーム担当
	相手審判	坂 高志氏・遠山 大輔氏・長田 裕太郎氏・阿部 ちひろ氏・五十嵐 菜美氏	

ミーティング内容 主任(3班)前田 喜庸氏・増淵 泰久氏・小澤 勤氏・宇田川 貴生氏・平 育雄氏・上田 篤拓氏

**①3POメカニクス**: リードがオートマチックに、クローズ・ダウンからスイッチ・サイドを行う。迷わずにまずは行ってみる。リードの体の向きを意識すること。プレイを長く見るためには、早く良い位置を良いアングルを占めなければ、リアクションを判定してしまう。**②ガイドライン**: ハンドチェックに関して判定をしに行く。まずはガイドライン通りに笛で表現をしていく。その中で、シリンダーとリーガル・ガーデニング・ポジションを判定の根拠にしていく。シュート・アフターまで目を残しておく。**③プレゼンテーション**: 止まってコール・レポートをする。2ショットなのかスローインなのかをすぐに指し示す。レポートは英語で行い、全体的に声をもっと出していく。アイ・ラインの高さでレポートを行う。

実技

期 日	8月13日	男子・女子	3日目
担当試合	対戦カード	VS	
	所沢西・都立駒場・足立VS大宮東・小山台・春日部・朝霞		4ハーフゲーム担当
	相手審判	坂 高志氏・遠山 大輔氏・土谷 峰到氏・青柳 龍之介氏・五十嵐 菜美氏	

ミーティング内容 主任(3班)前田 喜庸氏・増淵 泰久氏・小澤 勤氏・宇田川 貴生氏・平 育雄氏・加藤 誉樹氏

**①3POメカニクス**: Lの動きが昨日に比べてスムーズになった。次の課題としてTからCへの動きが自然とできるようにする。ダブルチームが行われた場合は、すぐにLがボール・サイドに移動し押し上げるようなイメージでCからTへのローテーションをする。**②ガイドライン**: 触れ合いの事実を確認したのち、責任はどちらなのかということと、RSBQを踏まえたうえで判定をしていく。**③プレゼンテーション**: もっと声を使って選手に伝えられることがある。また、声を出すことでベンチ・クルーともコミュニケーションをとっていく。マニュアルに沿ったコール&レポート。

全体の感想

この度、YOUNG OFFICIALS CAMPに参加させて頂き、国際審判なるという目標を達成するためには、何がいつまでに必要なのかということを知ることができた3日間でした。日頃より世界やトップリーグで御活躍されている方々からメカニクスやガイドライン・プレゼンテーションなどを精査的にご教授頂き、自己研鑽をもっと積んでいく必要性を強く感じました。また、同世代の仲間にも支えられ人の繋がりの大きさを痛感しました。今後切磋琢磨していく29名の仲間と講師の方々とのご縁を大切にしていきたいです。

最後になりましたが、JBA高森様をはじめとする開催地・埼玉県の皆様には細部にわたるまでご配慮頂き、この3日間大変お世話になりました。また、講師の皆様にも講義・実技指導など多岐にわたりお世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。そして、YOCへ派遣して下さいました渡邊整関東ブロック審判長・北島寛臣埼玉県審判長に心より感謝申し上げます。今回の経験を最大限に生かし目標に向けて精進していくと共に、日頃からお世話になっている県内審判員の皆様と、情報を共有しながら更なるレベル・アップに努めて参ります。今後ともご指導の程よろしくお願いたします。